

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2007. 11. 30

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

焼跡から溶けた^{びん}瓶と硬貨の固まり

— 秋の震災資料室展で寄贈される —

長田区にお住まいの林絹江さんから、亡くなられたご主人が硬貨を入れていた瓶と愛用の双眼鏡を寄贈いただいた。

震災当時のご自宅は日吉町5丁目4番、全焼だったそうだ。この地域は鷹取東地区と呼ばれ、商店・住宅・工場が密集し、商店の立ち並ぶアーケード街があった。

消防庁の記録によると地震発生直後に若松11丁目と日吉町5丁目の2か所から出火し、アーケードに面していたため拡大延焼が早く、6時30分頃には北西方向に、アーケード沿いに

拡大した。7時頃には東方向に延焼していき、8時20分頃には若松町10・11丁目、日吉町5・6丁目の大半が炎上した。その後、火は海運町に広がった。消防隊による消火活動が開始されたのは午後からであった。

林さんは、避難された先で「笑顔で声を掛け合い助け合うこの街が好きで絶対に戻ろう」と思っていた、帰ってこられて本当によかった。また、毎年地域で藤沢市から震災のことを学びに来る子供達を受け入れており、「おばちゃん、今年も来たよ」と去年来た子が声をかけてくれると、笑顔と元気をもらえてうれしい。これからも続けていきたい、と語っておられた。ありがとうございました。

訪ねて来られました

- ・横浜国立大学大学院環境情報研究所
岡西靖さん
- ・横浜市議員
加納重雄さん、斉藤伸一さん



関心を集めた空襲との関連

御蔵・菅原、鷹取東そして新長田駅南地区など、長田の大火を調べていると被災家屋が大正時代に建てられたのが多いのに気付く。

今回の展示で「神戸空襲を記録する会」から提供された空襲り災地図を皆さんに見ていただくと、長田区は空襲にあっていない地区が結構あるのに驚かされていた。

1945(昭和20)年3月17日、5月11日、6月5日の空襲で神戸の街は壊滅したといわれていたが長田区はそうではなかった。しかしその地区は50年後の震災で焼失した。

震災を語り継ぐことは大切なことであるように、神戸人にとっては神戸空襲を記録する営みも大事である。

*児玉藤夫さんよりカンパをいただきました
ありがとうございました

神戸学院大学生の研究を展示

11月21日から始まった秋の展示会は、神戸学院大をはじめ各方面の方々のご協力のもとに成功のうちに終えることができました。

学生たちの発表は、畳5枚分の広さの震災前・後の長田区の地図を作り、その上に被災家屋に赤色を塗り、被害の大きさを表した。また震災前の街並みの写真と後の写真を定点で写し、復興事業による移り変わりを発表した。

防災グッズコーナーでは、緊急地震速報や総務省消防局のいす持ち出し袋に入れるものとして印鑑・現金・救急箱・預金通帳・懐中電灯・ライター・缶切り・ラジオ等20点を展示した。

また避難所での生活を余儀なくされた方々から今後の防災や避難所のあり方についてアンケート調査を行った。さらに旧・二葉小学校における復興教育について担当教諭の活動を中心に紹介しながら、戦時中の学童疎開からの繋がりのある鳥取県船岡町との交流も報告された。

真陽小学生、震災を学ぶ

11月22日、真陽小学校の6年生30人が震災資料室展の見学にやってきた。

震災後に生まれた彼らは、当時のパネルや新聞、真陽小学校の文集などの身近な資料に大きな関心を持ち、それらをノートに記録していた。

また、神戸学院大のコーナーにおいても、イラストや写真などの子供たちにわかりやすい資料に集合時間を忘れて見入っている生徒もいた。

特に、乾パンなどの非常食には大変興味を持ち、「食べにくい」と言いながら試食を楽しんでいた。

今回、楽しみながら学んだことを、今後どこかで役立ててもらえたら嬉しく思う。

～1.17を忘れないで～ 「神戸の壁の歌」コンサートの集い

日時:2008年1月14日(月・祭)15～17時

場所:サロン・ド・あいら

JR三宮駅から南へ徒歩5分

TEL/FAX 078-241-1898

主催:リメンバー神戸プロジェクト

研究論文紹介

- 震災における学校危機管理
 - 阪神淡路大震災を教訓に—
- 大規模地震と動物の予兆現象
 - 動物はどれくらい地震を予知できるか—
- 阪神淡路大震災と障害者
 - 視覚障害者の体験を通じて—
- 避難所生活とペット
 - 大震災時の問題点と対策—
- 長田の震災資料を保存する情熱
- 都市型大規模災害におけるトイレ対策
 - 阪神淡路大震災の避難所経験を踏まえて—
- 阪神淡路大震災のモニュメント
 - 人と防災未来センターを例として
- 神戸大学震災文庫における震災資料保存について
- 小学校における防災教育について
 - 「子どもたちへのメッセージ運動」を通じて
- 震災10年と神戸
 - 震災追悼行事のイベント化について
- 「人・街・ながた震災資料室」の活動について
 - 記録保存と震災体験の継承—
- 消防団の消防活動と防災活動
 - 西脇市消防団の一年—
- 神戸長田新名物
 - 「ぼっかけ」をめぐる
- 神戸長田ケミカルシューズの魅力を探る
- 震災復興への取り組み
 - フェニックス・ステーションの活動を中心に—
- 阪神淡路大震災における警察官の活動
 - 兵庫県津名郡北淡町(当時)の事例を中心に
- 震災経験を生かした教育に関する考察
 - 神戸市の事例を中心に
- 神戸酒造業の現在
 - 震災復興への取り組み—
- 震災を経験した神戸市の教育再建に関する研究
 - 教育復興担当教員の活動を通じて—
- 大震災を記録した出版物の特色について
 - 震災を伝えるメッセージ表現から—
- 震災10年とトイレ対策
- 震災時における食糧問題と備蓄システムの成立
 - 阪神淡路大震災の経験は生かされているか—